

閨房

うちふるえる指で
その青いカーディガンのボタンを外し
透明な皮膚の数層下にあるゼリーに触れる

持続的なものが必要ではなくなるほどに
豊穡な毎日
その中に咲き誇る花々

喪失感に纏わりつかれ
焦燥の中うねる 官能
忘却の河は潤れた

生の可能性を最大限に享受する
生の可能性を最大限に制限する
この2つが同義となるとは...

私は生に触れているのだろうか
それを確かめることはできない
たとえその体から汗が吹き出たとしても

これが最後の部屋だというのに

(2001.9.26)